永年夢アイデア募集に提案をいただいている緒方さんのコラムをシリーズでお届けします。
（第 24 回～第 27 回）

第 27 回

夢アイデアとともに歩んできた道 No4

平成 28（2016）年 6 月

4. 地域活動の夢アイデア

（1）夢アイデア発表と実践の「夢織」

夢アイデアのスタイルは、H.18 年から交流会形式となり、発表はパワポ使用と聞かされました。困りましたが、急きょテキストで学び、機器一式を揃え、試行錯誤で編集。交流会では、初のパワポ発表で、程度が分からずアニメを多用した所為か、会場人気投票では驚きの市民大賞に。

それ以来、パワポ編集では、夕陽の動きや変化は下手なしゃべりよりはアニメで解り易くして、その後の夢アイデア発表や地域プレゼンに役立てました。

H.19 年、H.20 年の私の松林発表に対し、交流会で「女性は松林をひとりでは不安で歩けない」などと現実問題を指摘されました。結局、私の提案は言うだけの「机上論」だと気付かされ、それから、軸足を松林の実践に移しました。

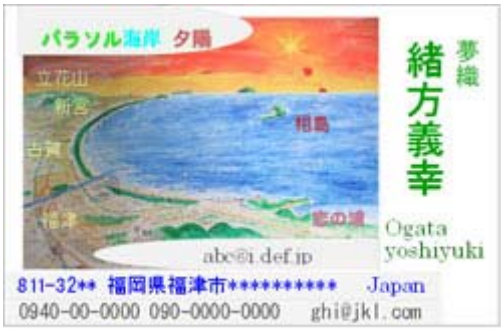
松林の草刈り、バラバラな作業法の作業者を責任をもって指導できるように、福津市の環境リーダー養成（松林）講座を受講。講師は、全国の松林を指導する専門家とボランテア指導者で、H.24 年に市長の修了証を受領。松の植樹法の実践を積み手順図作成と実演指導も。

その資格をもって、その後、市内 3 中学校で松林勉強会、さらに福津市の郷育カレッジ（社会人生涯学習）の松林講座で講師を続けています。その他市外でも松林保全の団体から勉強会を要請されたプレゼンでは、夢アイデアの取組み、資料編集の経験が活かされたと思っています。

市内外のプレゼンの時の肩書は、「福津市環境リーダー」ですが、私的な名刺交換では、「夢織」を主に使っています。

実は、この名刺は、H.19 年の「夢アイデア交流会」で、「あなたもまちのかお～まちの名刺づくり～」の発表を聞いてから作ったもの。趣味用も含めて種々作成し、変遷を経て最近は（写真 9）を使っています。（裏面は松林ボランティア、特技や資格）

肩書については、知人の退職者が「夢職」を付けたことがヒント。アイデア・マンとして夢を織る意識で「夢織」にしたものです。（この言葉は既に存在していたことを、後にＷＥＢで知りましたが）



（写真 9）肩書き「夢織」のまちの名刺

デザイン内容は、福津市のまちの魅力である「松林」と「夕陽」を入れ、構図は相島を中心に描く新宮・古賀・福津の海岸（松林）線で作る美しい「パラソル海岸」をアピールしたもの。天空のトンビの目に映っているであろう鳥瞰図です。名刺交換では、先ず気にされる肩書が「夢織」とあるため、読み方から訊かれます。「ユメオリ」と答えていますが、職に就いていなかった時は「ムショク（無職）」と。質問が無い時は私から、「２市１町地名」があるので、まちの特徴アピールをすれば話は次に続きます。水彩画ながら「夕空が鮮やか」なので、しっかり記憶に残ることが分かり効果抜群。我ながら気に入っています。

ところで、夢織は当初、夢を自分一人で織る意識でしたが、実践を重ねるに従い、私の夢は「縦糸」で、皆さんから貰う素晴らしい色んな夢が「横糸」として織られて実現していることに気付かされました。「夢織」が、想定外にも私を支配することになったようです。

道しるべなど松林サイン事業では、中学生の夢とアイデアの横糸を生かして、子供らしい夢の織物が出来上がりました。それ以外にも、補助金寄付者のテーマ、作業者の希望、中学校からの疑問、県や市の行政の許可とアドバイス、看板屋の知恵など、いろんな横糸があったのです。

ソフトな横糸にも助けられました。それは女性の感性です。サイン事業でも、中学生を知る郷づくり仲間（女性）の意見を取り入れ、中学生の夢とアイデアを生かす方法を採ったことが評価され、福岡県の公開審査をパス。審査会では、その女性と２人で発表しました。

サイン事業の次の実行過程では、私の縦糸の夢を良く理解してくれた協働相手の中学校主幹教諭（女性）が中学生をリードして彼らの横糸となる夢とアイデアを引き出し、子供らしい魅力的なものを完成させたのです。県の成果報告会に選ばれて、その女性と２人で発表しました。

私よりはるかに若い２人の女性の感性の横糸が無かったら、野暮ったいものになっていたことでしょう。

ちなみに、日本３大松原の２つ「三保松原」および「虹の松原」、かつて白砂青松 100 選ながら松枯れ惨状の「幣(ﾆｷﾞ)の松原」（糸島市）、これらの再生・保全活動の実質推進者は、３人とも夢をもった熱意のある女性です。私も良い影響を受け勉強になり感謝しています。

（2）賛同者が私の夢を実現

本当の夢は未だ実現していないものでしょうが、私はある段階からは、夢実現に拘りました。というのも、私の作品について「出来過ぎ。地域でプレゼンしては？」と言われたことがヒント。夢半分の実現状態で「夢アイデア」に応募し、その後地域活動等でプレゼンを行い、実践を通して改善し、残りの半夢の実現に努めました。

即ち、私の信条は、「実現するから夢に価値があり、そこから新たな夢が生まれる」です。

（写真 9）パワポでの地域プレゼン

そのため、応募作品でノミネートされたものは、地域のプレゼンも考慮して、アニメを多用した編集にしました。それを、夢アイデア交流会発表では 8 分に抑えるため、アニメを飛ばしたり早送り。一方、地域や講座のプレゼンでは、理解と実行をしてもらえるように丁寧に説明し、さらに質問や意見も貰うと、ゆうに 30 分以上かかったこともあります。（写真 9）

実践活動には「足（移動手段）」も極めて重要。福津市の場合、松林活動場所は海岸に近くバスが通らないところです。地域の人達は、歩きか自転車で参加できますが、よそ者の私は遠いため、早朝作業でもマイカーがあったから参加できました。ところが、作業中にマイカーを大破させて廃車してからは、草刈り 7 つ道具をぶら下げて不便なバスと徒歩となり、時間も倍増し、より早起きの参加になりました。これも松林の夢があったから、ある程度まで続きました。

しかし、活動箇所が増え、また、松林リーダーとして、計画・打合せ、お願いに廻るとなるとマイカーなしでは、時間を要して動きが困難になり、さらに、病気をしてからは限界に達しました。

解散した交流会もありますが、リードしてきた地域の松林活動は、私が不在でも現在進められています。松林再生・保全活動はボランティア（無報酬。むしろ出費）で、自身の達成感と皆からの「ありがとう」「松林が立派になった」の言葉のみが報酬です。団塊の世代の参加も難しいご時世になりましたが、松林に愛着を持って学ぶ若い（60 代）後継者が欲しいところです…。

まちの良さはよそ者が気づくと思っています。私が、福津市の松林と夕陽の素晴らしさを知ってからは、自己紹介や自説を述べる機会には何処に行っても、このアピールをしてきました。

若い人は別ですが、1 回言っただけでは、人の記憶に残りません（即ち、言ったことにならない）。2 回同じことを言えば「誰かがそんなこと言ってたナー」くらい、3 回以上（嫌がられないように顔を見て、言い方を変え）繰り返すことが重要。

古賀市の夕陽風景時計完成後に、福津市にも提案しましたが、個人では困難と悟りました。

私は、畦町の「街並み保存会」発足会員と津屋崎千軒の「海とまちなみの会」途中会員ですが、夕陽風景時計の設置を、私から要請したことはありません（と言っても、私が会員という影響はあるでしょう）。皆さんが古賀市の夕陽風景時計を見た後、「何故、（考案者が住む）福津市にないのか？」の声は時々聞こえていましたが。

夕陽は、「落日」とも言われますが、私には「夜の始まり」です。私の夕陽風景時計のキャッチフレーズは、夕陽は「今日の感謝。明日への勇気」。

（3）夢アイデア事業と地域活動は車の両輪

ところで、夢アイデア応募では、若い人のアイデアには叶わないので、もう一つの夢（最優秀賞）はとっくに諦めています。最近は、ノミネートもなくなりましたので、応募作品のパワポ編集はしていませんが、応募は、テーマを見つけて夢を考えた構想や原稿を残します。ですから、必要が生ずればパワポ編集は容易です。私の場合、夢アイデア発表の練習用に揃えた機器一式（古いがプロジェクターやスクリーン）があるため、何処へでも呼ばれてプレゼンをすることができます。最近は、USB だけでよいところが増え、助かっています。

畦町宿では、夕陽風景時計の勉強会を、今度は子供向けにして欲しいと頼まれています。

ここで、10 数年を振りさけ見れば、応募は、鉄道、松林、夕陽風景時計シリーズそれぞれ 4 篇ずつ奇しくも同数。もし、「夢アイデア」に参加していなければ、地域のテーマを考えることもなければ、パワポでのプレゼン作品も揃っていません。従って、中学生、市民や行政への実践のアピールはできず、実践の地域貢献もなければ、幾つかの夢アイデアの実現もなかったでしょう。

この年齢で、地域貢献で、老若男女の人々と喜び合ったり、悔んだり、悲しんだりすることもなかったでしょう。

夢アイデア事業と地域貢献活動は私にとって車の両輪でした。

「夢アイデア事業」に大変感謝しています。ありがとうございました。

緒方　義幸
第 2･6 回佳作、第 3 回優秀賞、第 4 回市民大賞受賞者